

〈表3〉食品等放射性物質の主な検査結果（平成25年度） 【Bq/kg=ベクレル/キログラム】

①保育所給食の検査結果

検体数	検査結果		下限値
707件	基準値以下	707件 (100%)	放射性セシウム134 =0.24~0.52Bq/kg 放射性セシウム137 =0.25~0.57Bq/kg 放射性ヨウ素 =0.30~0.83Bq/kg
	うち不検出	699件 (98.9%)	

※最大値は、セシウム134とセシウム137の合算値です。
※検出値が0.57Bq/kgの給食を、毎日200g、1年間食べ続けた場合の内部被ばく線量は「3~7歳」の例で示すと0.00040mSvとなります。

⑤飲料用井戸水の検査結果

検体数	検査結果	地区別件数	下限値
85件	不検出	85件	放射性セシウム134 =1.00Bq/kg 放射性セシウム137 =1.00Bq/kg 放射性ヨウ素 =2.00Bq/kg

⑥保育所プールの検査結果

検体数	検査結果	下限値
50件	不検出	放射性セシウム134 =1.00Bq/kg 放射性セシウム137 =1.00Bq/kg 放射性ヨウ素 =2.00Bq/kg

②小・中学校給食（調理後）の検査結果

検体数	検査結果	下限値
179件	不検出	放射性セシウム134 =0.421~0.967Bq/kg 放射性セシウム137 =0.488~1.120Bq/kg

※学校給食で使用する食材等についての検査結果については、市ホームページをご覧ください。

⑦幼稚園、小・中学校プール水の検査結果

検体数	検査結果	下限値	
381件	不検出	375件 (98.4%)	放射性セシウム134 =0.63~1.33Bq/kg 放射性セシウム137 =0.55~1.21Bq/kg
	基準値以下	6件 (1.6%)	

※最大値は、セシウム134とセシウム137の合算値です。
※基準値は、文部科学省の通知により、水道水の管理目標値の10Bq/kg。

③加工食品の検査結果

検体数	検査結果	下限値	
613件	基準値超過	1件 (0.2%)	放射性セシウム134 =0.30~7.88Bq/kg 放射性セシウム137 =0.32~7.98Bq/kg 放射性ヨウ素 =0.37~8.98Bq/kg
	基準値以下	612件 (99.8%)	
	うち不検出	609件 (99.3%)	

※最大値は、セシウム134とセシウム137の合算値です。
※検出値が170Bq/kgの梅干を、毎日10g、1年間食べ続けた場合の内部被ばく線量は「3~7歳」の例で示すと0.00673mSvとなります。

⑧四倉・勿来海岸の海水の検査結果

検査結果			下限値
四倉海岸	勿来海岸①	勿来海岸②	
不検出	不検出	不検出	放射性セシウム134 =0.32~0.36Bq/kg 放射性セシウム137 =0.33~0.43Bq/kg

※最大値は、セシウム134とセシウム137の合算値です。

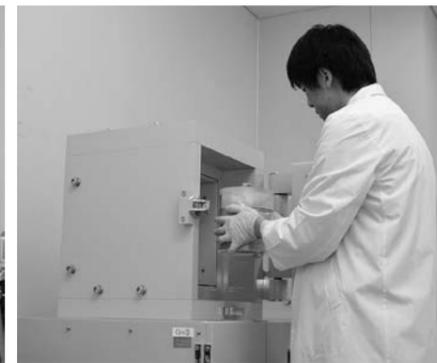
④水道水の放射性物質検査

検査内容	検査結果	下限値
市内11カ所の浄水場の水道水を週4回（遠野地区の3浄水場は週1回）	不検出	放射性セシウム134 =1Bq/kg未満 放射性セシウム137 =1Bq/kg未満 放射性ヨウ素 =1Bq/kg未満

※平成26年4月からは、市内全12カ所の浄水場の水道水を週3回（遠野地区の3浄水場は週1回）実施しています。



▲ホールボディカウンターによる内部被ばく検査



▲ゲルマニウム半導体検出器による食品等の放射性物質検査

〈表1〉内部被ばく検査結果（平成23年11月21日~平成26年3月31日）

受検者数	預託実効線量 1 mSv以下	
	うち不検出	
65,235人	65,235人 (100%)	64,170人 (98.4%)

※預託実効線量は、体内から受ける内部被ばく線量の累積線量（成人は50年、子どもは70歳まで）、検出限界値は放射性セシウム134=200ベクレル、放射性セシウム137=220ベクレル（検出限界値を預託実効線量に換算した場合「3~7歳」の例で示すと、0.058mSvとなります）。

〈表2〉甲状腺検査の結果（平成26年3月31日現在）

一次結果判定状況		該当者数
A判定	1判定 (結節やのう胞を認めなかったもの)	20,700人 (44.0%)
	2判定 (5.0mm以下の結節や20.0mm以下ののう胞を認めたもの)	25,947人 (55.1%)
B判定 (5.1mm以上の結節や20.1mm以上ののう胞を認めたもの)		407人 (0.9%)
C判定 (甲状腺の状態等から判断し、直ちに二次検査を要するもの)		0人 (0.0%)
計		47,054人 (100.0%)



市では、福島第一原発の事故発生直後から、市民の皆さんの安全・安心を第一に、空間放射線量の環境モニタリングや放射線健康管理対策、いわき産農産物の安全性確保と信頼回復に向けた取り組み、さらには放射性物質の除染などを行ってきました。今月号では、これまでの主な放射線に対する取り組みなどについてお知らせします。

お知らせします 放射線に対する取り組み

内部被ばく検査等 放射線健康管理対策

これまでの実施状況

○内部被ばく検査の結果

昨年度末までに実施した、ホールボディカウンターによる内部被ばく検査の結果は〈表1〉のとおりです。また、受検者の預託実効線量は、全員が一ミリシーベルト未満であり、健康に影響が及ぶ数値ではありませんでした。

○甲状腺検査の結果

県では、現時点での甲状腺の状況を把握するとともに、生涯にわたる健康を守るために甲状腺（超音波）検査を実施しています。本市においては、平成二十四年度から二十五年度にかけて、検査が実施されました。その結果は〈表2〉のとおりです。

○食品等放射性物質の検査結果

保育所、小・中学校の給食や加工食品をはじめ、水道水や飲料用井戸水などの放射性物質の検査を実施してきました。

○今年度の検査体制

内部被ばく検査
本年四月までに、一回目の検査が一巡したことから、五月より二回目の検査を北部地区から順に実施していきます。

○甲状腺検査

県では、来年度に本市の甲状腺検査（二回目）を予定しています。

○食品等放射性物質検査

昨年度と同様に、引き続き各種検査を実施していきます。

〈表6〉自家消費作物等の放射能簡易検査の結果

①検査結果 (平成25年度)

区分	検査結果		基準値に対して	
	検体数	割合	検体数	割合
検出下限値未満	5,129	78.3%	5,996	91.5%
検出下限値超~50Bq/kg以下	649	9.9%		
50Bq/kg超~100Bq/kg以下	218	3.3%		
100Bq/kg超~	555	8.5%	555	8.5%
計	6,551	100.0%	6,551	100.0%

※検出下限値：セシウム134とセシウム137がそれぞれ10Bq/kg。

②検査件数が多い品目の検査結果 (平成25年度実績)

品目	検体数	検出下限値未満の件数	検出下限値を超えた検体数	100Bq/kgを超えた検体数
ウメ	498	467	31	1
タケノコ	410	217	193	53
ジャガイモ	388	387	1	0
コメ	363	363	0	0
ユズ	334	251	83	8
カキ	321	320	1	0
シイタケ	261	6	255	214
キュウリ	232	232	0	0
タマネギ	225	224	1	0
フキ	209	205	4	0
ダイコン	156	156	0	0
カボチャ	130	129	1	0
イノシニク	113	8	105	86
ナス	103	103	0	0
ミョウガ	101	91	10	1
ワラビ	101	84	17	7
キウイフルーツ	99	96	3	0
ミカン	97	96	1	0
サツマイモ	87	87	0	0
ハクサイ	86	85	1	0

※原木ナメコ(露地)、ユズ、タケノコ、タラノメ(野生)、ワラビ、クリは、市のモニタリング検査により基準値等の超過を確認し、市で出荷自粛を要請した後に出荷制限となったものです。

※出荷制限等の解除に当たっては、原則として1市町村当たり3カ所以上、直近1カ月以内の検査結果が全て基準値以下の場合に、県が原子力災害対策本部へ申請し、解除指示を受けることとなります(個別品目ごとの取り扱いあり)。

○タケノコ・山菜類の出荷制限解除については、市内において広範囲に多くの検体を検査し、全てが基準値以下であることが確認された場合に、検査結果を考慮し、解除の可否が判断されることとなります。

〈表4〉いわき産農作物安全確認モニタリング

①検査結果 (平成25年度)

区分	検査結果		基準値に対して	
	検体数	割合	検体数	割合
検出下限値未満	6,137	94.79%	6,472	99.97%
検出下限値超~50Bq/kg以下	328	5.07%		
50Bq/kg超~100Bq/kg以下	7	0.11%		
100Bq/kg超~	2	0.03%	2	0.03%
計	6,474	100.0%	6,474	100.0%

※検出下限値：セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg。

②検査件数が多い品目の検査結果 (平成25年度実績)

品目	検体数	検出下限値を超えた件数	検出された最大値
ネギ	495	3	11Bq/kg
ダイコン	297	2	12Bq/kg
ジャガイモ	289	4	15Bq/kg
ナシ	246	0	-
カボチャ	229	0	-
タマネギ	217	0	-
キャベツ	194	3	11Bq/kg
ナス	191	0	-
キュウリ	182	6	15Bq/kg
ハクサイ	182	1	11Bq/kg

〈表5〉出荷制限・摂取制限一覧(6月17日現在)

目 品	制限内容	制限期間
野生キノコ	出荷制限・摂取制限	平成23年9月15日~
原木ナメコ(露地)	出荷制限	平成23年10月31日~
ユズ	出荷制限	平成24年1月10日~
タケノコ	出荷制限	平成24年4月9日~
タラノメ(野生)	出荷制限	平成24年5月1日~
ゼンマイ	出荷制限	平成24年5月2日~
ワラビ	出荷制限	平成24年5月10日~
コシアブラ	出荷制限	平成24年5月14日~
クリ	出荷制限	平成24年10月12日~

特集

○検査を希望される方は事前予約を
▼予約先 いわき市食品放射能検査受付センター
(☎38・7182、土・日曜日、祝日を除く平日の9時~17時)

今年度の取り組み

今年度も引き続き、いわき産農作物安全確認モニタリング検査や、自家消費作物等の放射能簡易検査を実施していきます。

水産物に関する放射性物質検査など

本市沿岸域での試験操業を昨年十月から開始

○原発事故以降は操業自粛
本市の沿岸漁業は、福島第一原発事故を受けて、県漁業協同組合連合会の決定により、平成二十三年三月十五日から現在まで、操業が自粛されています。

○安全性が確認された魚種を試験操業

このような中、操業再開に向け、県が行っているモニタリングの結果などにより、安全性が確認された魚

種について、昨年十月十八日より本市沿岸域での試験操業が開始されました。

放射性物質検査

○検査結果
昨年度、試験操業で水揚げされた、水産物の放射性物質検査の結果は〈表7〉のとおりです。

出荷方針

県漁業協同組合連合会の独自の基準により、一キログラム当たり五十ベクレル以下の魚種を出荷の対象としています。

今後の取り組み

本格的な漁業の再開に向けて、引き続き、試験操業を実施していく予定です。



〈表7〉いわき産水産物の放射性物質モニタリング検査結果

①検査結果 (平成25年度)

区分 (Bq/kg)	検査結果		基準値に対して	
	検体数	割合	検体数	割合
検出下限値未満	142	97.3%	145	99.3%
検出下限値超~50Bq/kg以下	3	2.0%		
50Bq/kg超~100Bq/kg以下	0	0%		
100Bq/kg超~	1	0.7%	1	0.7%
計	146	100.0%	146	100.0%

※検出下限値：セシウム134とセシウム137の合算値が約10Bq/kg。

②魚種別の検査結果 (平成25年度)

魚種名	検体数	検出下限値を超えた検体数	100Bq/kgを超えた検体数
アオメエソ	9	0	0
アカガレイ ※1	3	1	0
アカムツ	7	0	0
イシカワシラウオ	2	1	0
キアンコウ	8	1	0
キチジ	5	0	0
ケガニ	1	0	0
コウナゴ	2	0	0
コウナゴ(加工品) ※2	4	0	0
サメガレイ	4	0	0
スルメイカ	10	0	0
マアジ	8	0	0
ミギガレイ	11	0	0
ミズダコ	10	0	0
ミズダコ(加工品) ※2	10	0	0
ヤナギダコ	11	0	0
ヤナギダコ(加工品) ※2	11	0	0
ヤナギムシガレイ	10	0	0
ヤリイカ	10	0	0
ユメカサゴ ※3	10	1	1
計	146	4	1

※1 アカガレイは、相双地区で本年3月に県漁連の自主基準である50Bq/kgを超えたものがみられたことから、安全性が確認されるまで流通せず、重点的な検査を実施中。
※2 コウナゴ、ミズダコ、ヤナギダコは、水揚げの検査後に加工業者ごとに検査を実施。
※3 ユメカサゴ(ノドグロ)から基準値(100Bq/kg)を超えるセシウムが検出され、本年3月25日に国より出荷制限の指示。同5月28日に国より出荷制限が解除。

農作物に関する放射性物質検査など

いわき産農作物安全確認モニタリング検査

○検査結果

昨年度、六千四百七十四件を測定し、その検査結果は〈表4〉のとおりです。

○出荷制限・摂取制限

放射性物質の検査結果を基に、原子力災害対策本部長(内閣総理大臣)は、県に対し出荷制限などを指示しています。

農作物において、現在も継続している出荷制限・摂取制限については〈表5〉のとおりです。

自家消費作物等の放射能簡易検査

○検査結果

出荷や販売などを目的としない自家消費用の作物についても、支所や公民館等十四カ所(昨年度までは二十一カ所)の検査会場を設けて、検査を実施しています。

昨年度の検査結果は、〈表6〉のとおりです。